

令和8年度全国学力・学習状況調査の2段階目の結果公表を行いましたので、調査結果の活用や取扱いについてお知らせします。

8 文科教第 830 号
令和 8 年 8 月 3 日

各 都 道 府 県 教 育 委 員 会
各 指 定 都 市 教 育 委 員 会
各 都 道 府 県 知 事
構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の 殿
認定を受けた各地方公共団体の長
附属学校を置く各国公立大学法人学長

文部科学省総合教育政策局長

塩 見 み づ 枝

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果公表②及び調査結果の活用や取扱いについて（通知）

令和 8 年度全国学力・学習状況調査（以下「令和 8 年度調査」という。）の結果については、「令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和 7 年 12 月 5 日付け 7 文科教第 1370 号文部科学事務次官通知別紙。以下「令和 8 年度調査実施要領」という。）において、文部科学省から公表することとしています。また、令和 7 年度以降の調査結果の取扱い等については、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和 7 年 6 月 6 日付け 7 文科教第 507 号文部科学省総合教育政策局長通知。）に従って、国による結果公表は 3 段階に分けて行うこととしております。

2 段階目の結果公表（以下「結果公表②」という。）として、全国データに基づく分析結果を、8 月 3 日に下記のとおり公表しましたので、お知らせします。

調査結果について、各教育委員会、学校法人、国立大学法人、公立大学法人、学校設置会社及び学校（以下「各教育委員会・学校等」という。）において十分に活用し、教育施策の成果と課題の検証・改善や学校における学習指導の改善等に役立てていただくことが重要です。調査結果の活用や取扱いに関する留意事項等は下記のとおりですので、各教育委員会・学校等におかれては、下記に御留意の上、適切な対応をお願いします。

都道府県教育委員会におかれては域内の市町村教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）及び関係する所管の学校に対して、指定都市教育委員会におかれては関係する所管の学校に対して、国立大学法人学長及び公立大学法人学長におかれては関係する附属学校に対して、本通知の内容について指導、助言及び周知をお願いします。都道府県知事におかれては関係する域内の私立学校及びそれを設置する学校法人に対して、構造改革特別区域法（平成 14 年法律第 189 号）第 12 条第 1 項の認定を受けた地方公共団体の長におかれ

ては関係する域内の株式会社立学校及びそれを設置する学校設置会社に対して、本通知の内容について周知をお願いします。

今回の調査結果の分析・検証の結果やそれらを通じて得られた具体的な課題などについては、小・中学校のみならず、高等学校の関係者等にも共有いただくよう配慮をお願いします。また、各教育委員会において所管の学校に対して周知する際には、例えば、各学校において進める必要がある取組を整理して、教育委員会主催の研修等で周知するなど、効果的な周知に取り組んでいただくようお願いします。

記

1. 令和8年度調査の結果公表について

(1) 公表内容について

令和8年度調査の結果に関する以下の資料を、国立教育政策研究所のホームページ(<https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/>)に公開していること。

- ・結果（概要）
- ・結果（概要）のポイント（本通知の別添1）
- ・報告書（小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学、中学校英語、質問調査）
- ・その他調査結果資料

(2) 調査結果の概要（別添1）

①教科調査の結果

国語では、文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするなど、課題が見られたこと。

算数・数学では、体積の求め方を理解すること、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えること、2直線が平行になる条件を理解することなどに課題が見られたこと。

英語では、社会的な話題に関して読んだことについて自分の考えを書いたり、日常的な話題について自分がしたいことを話したりすることはできているが、その理由を書いたり、話したりすることに課題が見られたこと。

②質問調査の結果

学校及び児童生徒に対する質問調査の結果から、

- ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、ICTを活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られること
- ・SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られること

などが明らかになったこと。

③文部科学省の主な取組

調査結果を踏まえて文部科学省で実施する主な取組は、別添 1 の p. 7 のとおりであること。

2. 令和 8 年度調査結果の活用及び取扱いについて

(1) 調査結果の活用

各教育委員会・学校等においては、令和 8 年度調査実施要領 7. (5) に基づき、調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること。また、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てること。

なお、調査結果の分析に当たっては、教科調査の平均正答数、平均正答率、平均 IRT スコアのみならず、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT 機器の活用、教科に関する意識や学習活動等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要であること。

また、文部科学省としては、別添 1 の p. 7 に示す取組一覧の中でも、別添 2 に示す調査結果の活用に関する取組（報告書の作成、8 月 19 日（水）・20 日（木）にオンライン開催する全国説明会など）を行っており、各教育委員会、学校等において積極的に活用いただきたいこと。

(2) 調査結果の取扱いに関する留意事項

調査結果の取扱いについては、令和 8 年度調査実施要領 7. と「令和 8 年度全国学力・学習状況調査における結果の提供及び公表日等について」（令和 8 年 6 月 10 日付け事務連絡）に基づき、適切に行うこと。

特に、調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮すること。

3. 調査結果を踏まえた教育委員会における取組の推進について

各教育委員会においては、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、改善計画等の作成を行うことなどにより、域内の教育や教育施策の改善に向けて総合的かつ計画的な取組を進めること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

①調査結果において課題の見られた点を中心に、各学校における教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るための研修等を適切に実施すること。その際、今回、IRT に基づいて示した中学校英語の結果に関する資料（IRT バンドの分

布、G-P 分析図（Good-Poor Analysis）等）を含め、別添 2 に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、調査結果の分析・検証の結果については、教育委員会全体で共有し、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

②学校における具体的な改善の計画や取組に対し、学校の状況に応じて、必要な指導、助言や支援等を行うとともに、首長部局等と連携を図り、児童生徒の学習環境の充実・支援に取り組むこと。その際、特に課題が見られる学校における改善の取組を促すとともに、積極的に支援すること。

③個に応じた指導をはじめ、指導内容や指導方法等の改善を推進するため、指導資料や教材の作成、教職員研修の実施や授業研究等への支援、教職員や非常勤講師の配置等への配慮など、教育施策の改善に適切に反映させること。

④優れた取組を行っている学校等の事例や調査結果の分析・検証手法等の周知に努めるなど、域内における学習指導や家庭における学習習慣・生活習慣等の改善に向けた取組を推進すること。

4. 調査結果を踏まえた学校における取組の推進について

(1) 学習指導等の改善に向けた取組の推進

各学校においては、児童生徒一人一人の結果の振り返りを進めるとともに、別添 2 に示した各種資料等も積極的に活用しながら、調査結果を分析・検証し、指導計画等に適切に反映させるなど学習指導等の改善に向けて計画的に取り組むこと。また、その際には、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討すること。

具体的には、次の事項について取り組むことが考えられること。

①学習指導要領の着実な実施

引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、カリキュラム・マネジメントの充実を図ること。その際、各教科等の特質に応じて、具体的な学習内容、単元や題材などの構成、学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ね、適切な指導方法を選択しながら、工夫して実践すること。また、児童生徒の各教科への興味・関心、理解度を高める指導改善となるよう留意すること。さらに、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題が見られる場合には、それを身に付けさせるために、児童生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることが求められること。また、児童生徒の状況に応じて既習事項を取り上げて指導するなどして定着を図ること。

②ICT 機器を活用した学習活動の充実

ICT 機器を活用した学習を質・量ともに充実させていくため、調査結果を踏まえ、各学校における課題を改めて把握・分析し、学習指導等の改善に計画的に取り組むこと。

その際、1人1台端末を活用した効果的な実践例を公開している、以下のホームページ等も参照すること。

- ・「リーディング DX スクール」のホームページ（文部科学省ウェブサイト）

URL:<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

- ・「StuDX Style」のホームページ（文部科学省特設ウェブサイト）

URL:<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

③児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

道徳教育や特別活動、体験活動、読書活動、生徒指導など学校教育全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組に努めるとともに、保護者や地域等の理解と協力の下に十分に連携をとりながら、児童生徒の心のケアや基本的な学習習慣や生活習慣等の改善に向けた取組等の推進に引き続き努めること。

④学習習慣・生活習慣の確立

家庭との連携を図りながら、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行うとともに、これを踏まえた予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すこと。

また、ICT を受動的に利用するにとどまらず主体的・能動的に活用することができるよう、授業等を通じた情報活用能力の育成等を図るとともに、SNS 等を通じた犯罪被害を含む危険の回避など ICT を正しく安全に利用することができるよう、情報モラル教育の充実、インターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進すること。

(2) 校内研修等の充実

調査結果において課題の見られた点を中心に、教職員の指導力の向上、指導内容や指導方法等の改善を図るため、校内研修等を適切に実施すること。その際、別添2に示した各種資料等も積極的に活用すること。また、調査結果の分析・検証の結果やそれらを通じて得られた具体的な課題などについては、学校全体で共有するとともに、小・中・高等学校全体を通じて資質・能力を育成するため、近隣等の小学校や中学校や高等学校とも共有するなどして、調査実施学年以外の学年や調査実施教科以外の教科等の指導改善等にも活用すること。

別添 1 令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

URL : <https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html>

別添 2 文部科学省における全国学力・学習状況調査結果の活用に関する令和 8 年度の
取組

参考資料 令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（参考）「全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査）」のホームページ
（文部科学省ウェブサイト）

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

（参考）IRT 分析等にかかる研修動画
（国立教育政策研究所ウェブサイト）

URL : <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/kensyushiryoudouga/26bunseki.html>

（参考）IRT を用いた結果返却に関する動画・リーフレット
（文部科学省ウェブサイト）

URL : https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html

（参考）情報モラル教育ポータルサイト
（文部科学省ウェブサイト）

URL : <https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral/index.html>

【本件担当】

文部科学省総合教育政策局

参事官（調査企画担当）付学力調査室

E-mail : gakucho@mext.go.jp

電話 03-6734-4111（代表）内線 3726

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）のポイント

1 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要



令和8年8月
文部科学省・国立教育政策研究所

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ※令和5年度以来の実施 ②学 校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出题 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

結果公表スケジュール

- 結果公表①
(正答率・IRT バンド分布などの全国平均)
- 結果公表②
(全国データに基づく分析結果)
- 結果公表③
(都道府県・指定都市別データに基づく分析結果)

全国（国公私）の 平均正答数（率）・ 平均IRTスコア

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校500校分のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」の3技能を統合したIRTスコアを返却。

小学校				中学校						
国語		算数		国語		数学		英語 4 技能		(参考) 英語 3 技能
7.9/13 問 (61.1%)		9.1/16 問 (56.6%)		9.6/15 問 (64.2%)		9.2/16 問 (57.4%)		499		502
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	—
57.7%	65.2%	58.3%	55.5%	60.7%	68.6%	57.0%	58.9%	490	510	



- 文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。

→自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識させることが重要。

小学校国語 大問 2 四

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。

条件①【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いている。

条件②抜き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎっこ（「」）でくくっている。

条件③抜き出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。

条件④ 140字以内にまとめて書いている。

正答例

（正答率
33.6%）

○「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやすいため、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。

誤答例

条件③は満たしているが、①②を満たしていないもの …29.1%
●白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。



本文の一部を引用して書けたが、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童がいた。

中学校国語 大問 4 四

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

【例文2】（擬態語を使った例文）
生徒はきっぱりと言った。
「いいえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」

【例文1】（擬態語を使っていない例文）
生徒は言った。
「いいえ、たくさん練習してきたから大丈夫です。」



条件①〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。

条件②「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

正答例

（正答率
39.3%）

○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

誤答例

条件①は満たしているが、②を満たしていないもの …35.1%
●「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。



擬態語の効果について自分の考えを述べようとしているものの、本文やそこから得た理解に基づく記述が不十分な生徒がいた。

2 教科に関する調査結果（算数・数学）

R8



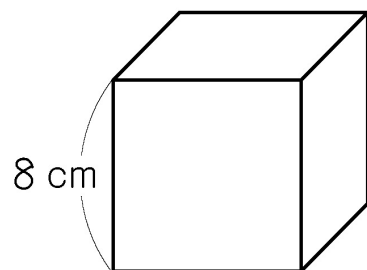
- 立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られた。
- 2直線が平行になる条件の理解に課題が見られた。

→図形の指導において具体的な活用場面を通じて理解を深めることや、量と割合の違いについて図で表現するなどしながら理解を深めることが重要。

小学校算数 大問 1 (1)

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題

1 辺が 8 cm の立方体の体積を求める式を書く。



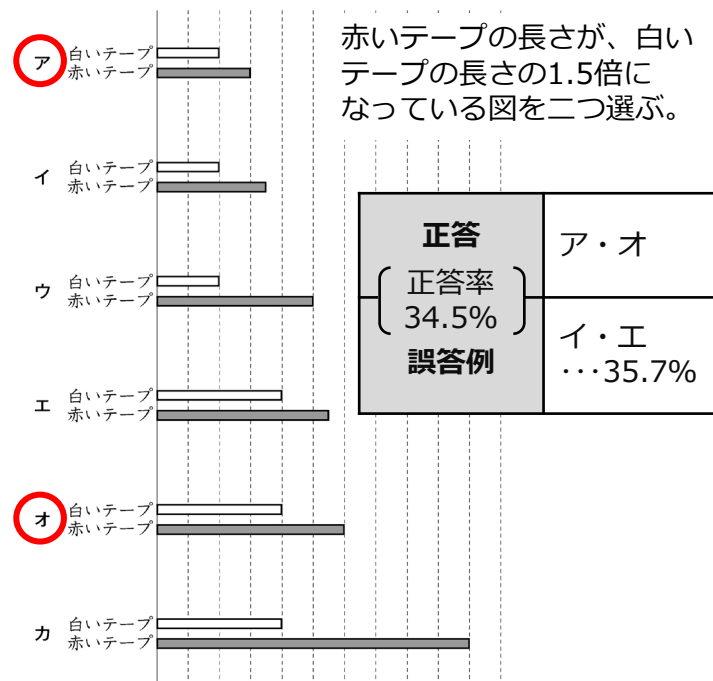
正答 (正答率 72.9%)	$8 \times 8 \times 8$
誤答例	$8 \times 8 \dots 10.2\%$ $8 \times 6, 8 \times 3 \dots 5.5\%$



立方体の全ての辺が等しいことは理解しているが、誤って正方形の面積の公式を用いている児童や、立方体の特徴を体積の求め方に結び付けることができていない児童がいた。

小学校算数 大問 2 (4)

基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題



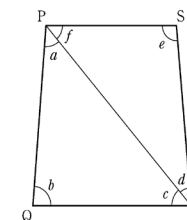
基準量の1.5倍に当たる量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる児童がいた。

中学校数学 大問 3

2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題

四角形PQRSにおいて、 $PS \parallel QR$ を示すための根拠となる二つの角を書く。

③ 下の図は、四角形PQRSに対角線PRをひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの6つの角のうち、ある2つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その2つの角を書きなさい。

正答 (正答率 49.6%)	$\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの
誤答例	① $\angle b$ と $\angle e$ を解答しているもの … 24.2% ② $\angle a$ と $\angle d$ 、 $\angle b$ と $\angle e$ などの対応関係にはない二つの角を解答しているもの … 20.3%



2直線が平行になるための条件を理解し、2直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある生徒がいた。

2 教科に関する調査結果（英語）



R8

- 社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くことに課題が見られた。
- 日常的な話題について、自分がしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題が見られた。

→自分の考えを書いたり話したりする際に、読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示すことを意識させることが重要。

中学校英語 問10 (2)

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

Do you think my opinion is good?
あなたの考え

なぜそう考えるのか

正答の
条件
・
正答例

正答率
28.4 %

条件①：書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
条件②：①の理由を書いている。
I agree with you.
I often use the internet to study English.

誤答例

条件①は満たしているが、②を満たしていないもの …43.6%
I think your opinion is good.
I think students will find is very good. (文構造の誤り)



自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くことに課題がある生徒がいた。

中学校英語 問16

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話す問題

留学生と仲良くなるために、一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す。



正答の条件
・
正答例

正答率
53.5 %

条件①：留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げて話している。
条件②：①の理由を話している。
I want to play tennis with Ming because it is fun for me to play tennis.

誤答例

条件①は満たしているが、②を満たしていないもの …16.8%
I want to play Karuta with Ming because it can learn Japanese culture and it is very enjoy. (主語、文構造の誤り)



留学生と一緒にしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題がある生徒がいた。

(参考) 平成31年度の調査問題

次の内容を英語で話す。
〔正答率 45.9%〕



話してほしい内容

(①, ②のどちらも話してください)

- ①あなたの将来の夢、または、将来やってみたいこと
- ②その実現のために頑張っていること、やるべきこと

日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを整理して、英語で話すことに、引き続き課題が見られた。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）①



※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。

※ 内の数値は相関係数

R8

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

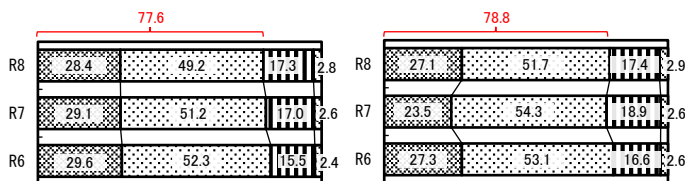
- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校

中学校

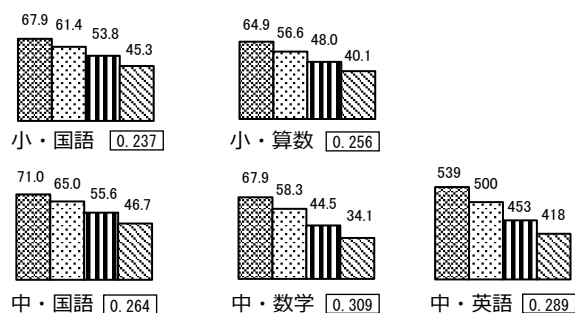


- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

選択肢ごとの平均正答率・スコア



※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

ICT機器の活用

- ◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えている。

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる

小学校

中学校



友達と協力しながら学習を進めることができる

小学校

中学校



- ◆ ICT機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用できる児童生徒ほど、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識が高い。

「ICTのルールやマナーを守って活用している」×「いじめはどんな理由があってもいけない」

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校

中学校

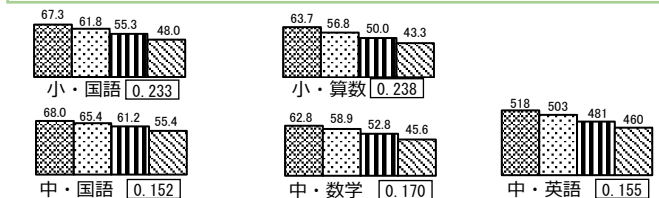


- ◆ ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られる。

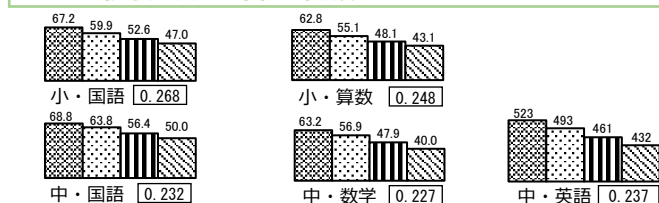
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない

タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる

選択肢ごとの平均正答率・スコア



タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる



※「タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」、「インターネットを使って情報を収集することができる」に関する回答でも同様の傾向。

学校外での過ごし方

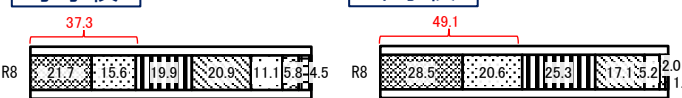
- ◆ SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られる。

平日、1日当たりのスマートフォン等でのSNSや動画視聴時間

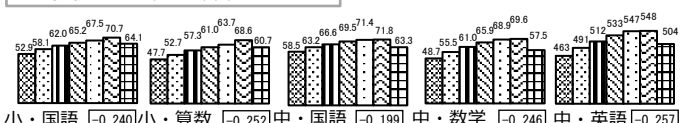
■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない
■ スマートフォン等を持っていない ※相関係数は「スマートフォン等を持っていない」回答を除外して算出

小学校

中学校



選択肢ごとの平均正答率・スコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。

3 質問調査結果（児童生徒、学校）②

※グラフはその他、無回答を除いているため、合計しても100%に満たない場合がある。

※ 内の数値は相関係数

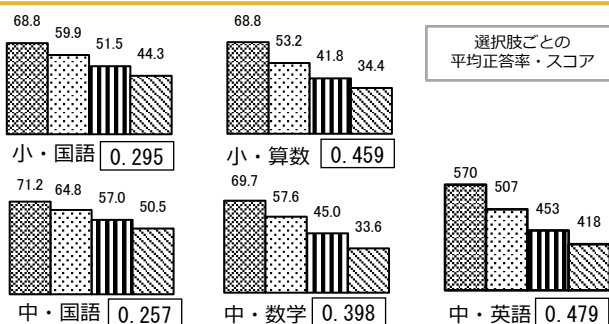
R8

各教科への興味・関心、理解度

- ◆ 「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向。

授業の内容がよく分かる

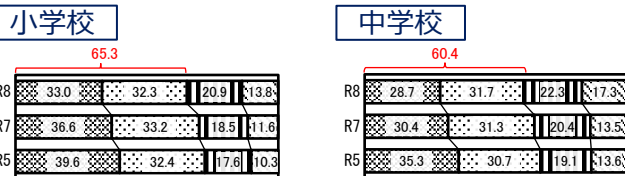
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



- ◆ 「読書は好き」と回答した児童生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向。

読書は好き

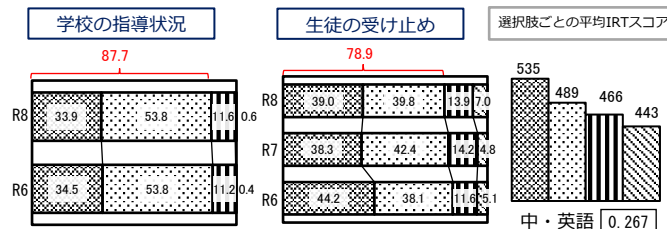
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



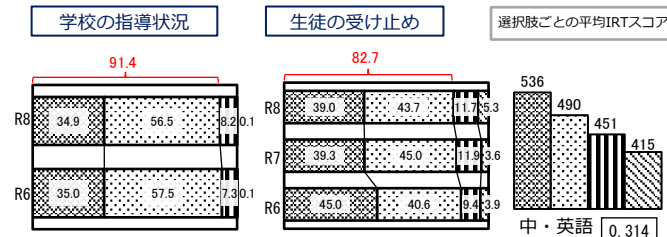
- ◆ 中学校英語の授業において、言語活動に取り組んでいると受け止めている生徒の方がスコアが高い傾向が見られる。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた



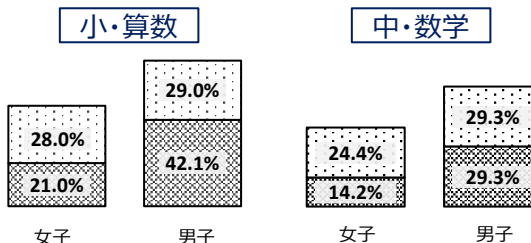
自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた



- ◆ 算数・数学の平均正答率に大きな男女差は見られない一方、「得意」と考える割合は、男子の方が女子より高い。

算数〔数学〕の勉強は得意だ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる



ウェルビーイング

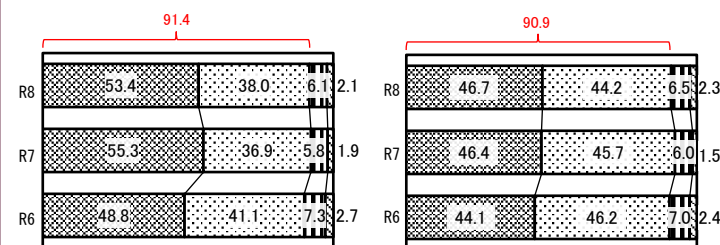
- ◆ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒ほど、学級で人と違う意見を言っても否定されないと考えている。

先生は、あなたのよいところを認めてくれる

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校

中学校

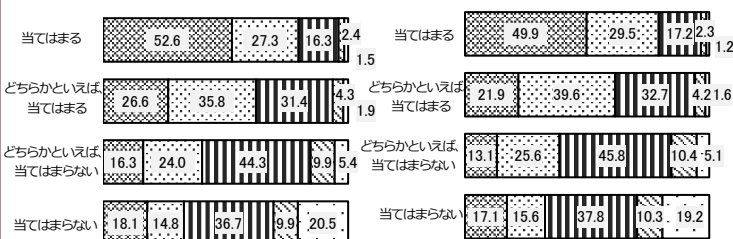


「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」×「学級では人と違う意見を言っても否定されない」

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらともいえない ■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない

小学校

中学校



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。

1

学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討

- **主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**
 - ・ 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底のため、全国の都道府県等教育委員会の指導主事等を対象とした協議会を実施。
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた全国の授業づくりの好事例を収集・分析し、サポートマガジン「みるみる」として公表。引き続き、事例普及に取り組む。
- **指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）**
 - ・ 報告書（授業アイデア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
 - ・ IRTに基づく結果の活用方法について動画資料等で発信。児童生徒の理解の状況に応じた指導について、報告書で解説。
 - ・ 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和8年8月19日・20日オンライン開催）。
 - ・ オンラインなども活用し、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。
- **学習指導の充実**
 - ・ 今回明らかになった課題の解決に資するデジタル技術の活用方法について発信を実施。
 - ・ 英語において、練習量の増加や英語を学ぶ動機付けの強化等の観点から、AIを活用した英語教育の実証事業を実施。
 - ・ 児童等に、学校外での自身の興味・関心に沿って楽しく利用できる学習コンテンツ（「たのしくまなび隊」など）について周知。
- **次期学習指導要領に向けた中央教育審議会における検討**
 - ・ 経済的に困難な背景のある子供たちを含め、子供たち一人一人が必要な資質・能力を育成できるよう、各教科等の改善や柔軟な教育課程編成の在り方について、次期学習指導要領に向けた検討を行う。

2

GIGAスクール構想の更なる取組の推進

- **学校のICT環境整備の推進**
 - ・ 共同調達スキームの下での端末の着実な更新や、学校におけるネットワーク環境の改善等を推進、都道府県域内で共同調達・共同利用を前提とした次世代校務DX環境の整備を加速。
- **学校のICT環境を活用した取組**
 - ・ 次期学習指導要領を見据えた情報活用能力の抜本的な向上のための教材開発。
 - ・ ICT活用のための研修コンテンツの提供やGIGA StuDX推進チームによる研修の実施。
 - ・ 学校DX戦略アドバイザーによる相談体制の構築、支援。
 - ・ 生成AIガイドラインの策定・改定、生成AIパイロット校による好事例の創出・普及。
 - ・ 紙・デジタルそれぞれの良さを取り入れた教科書の推進。

3

児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- ・ 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- ・ 読書の推進について、発達段階に応じた読書活動の先導的なモデル事業や、学校等における子供の読書活動を推進するための優れた取組の表彰を実施。

4

アンコンシャスバイアスの解消に向けた取組の推進

- ・ 女子中高生と研究者等の交流機会の提供、シンポジウムや出前授業などの取組を、地域や企業等と連携して実施する大学等の支援を実施。

5

児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立

- **テレビゲームやスマートフォンの使用**
 - ・ 文部科学省情報モラルポータルサイトにおいて、児童生徒向けの情報モラルに関する動画教材を提供するとともに、教職員等を対象としたオンライン研修会を開催。
 - ・ こども家庭庁をはじめとした関係省庁と連携し、青少年インターネット環境整備基本計画に基づき、利用時間に関する「親子のルールづくり」の推奨など、青少年のインターネットの適切な利用に関する教育・啓発活動等を推進。
- **学習支援**
 - ・ 教員OBや大学生などの地域住民の協力を得て行う、中学生・高校生等を対象とした放課後等の学習支援活動（地域未来塾）について補助を実施。

6

支援を必要とする児童生徒の支援策の充実

- ・ CBTの特徴をいかし、不登校児童生徒、障害のある児童生徒、外国人児童生徒等がそれぞれの状況に応じて柔軟に調査に参加し、支援の充実につなげる形で活用。
- ・ 1人1台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化し、制度の更なる活用促進のため、リーフレットを作成・周知。

7

教師を取り巻く環境整備

- **指導体制の充実**
 - ・ 中学校35人学級化、小学校高学年及び中学年での教科担任制の拡充、中学校生徒指導担当教師の配置拡充、貧困等個々の学校が抱える課題への対応等、学校の指導・運営体制の充実。
 - ・ 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するため、教師人材の質の向上と入職経路の拡幅の観点から、教師の養成・採用・研修における必要な改革について、中央教育審議会の審議の中で検討。
- **子供と向き合う時間の確保**
 - ・ 教師が教師でなければできない仕事に集中することができるよう、学校における働き方改革の更なる加速化や、教員業務支援員などの支援スタッフの配置充実。
 - ・ コミュニティ・スクールを活用した働き方改革に係る取組の充実。
- **児童生徒・教職員のウェルビーイングの向上に資する学校施設の整備**
 - ・ 学校施設整備への支援及び情報共有プラットフォームや事例集の周知を通じた好事例の横展開等による、児童生徒や教職員が居心地の良さ等を感じられる学校施設整備の推進。
- **校務DXの推進**
 - ・ 教職員の事務負担の軽減や効率的で柔軟な働き方の実現、データ活用・データ連携等を通じた教育活動の高度化に向けて、次世代校務DX環境の整備への支援を加速。

8

調査結果の活用、次回以降の調査の検討

- **教育委員会等における分析活用の推進**
 - ・ 教育委員会等が課題意識に応じて調査結果を簡便に分析・活用可能な「分析ツール」の開発・提供。都道府県・指定都市ごとに多面的に分析し結果返却。
- **調査の充実に向けた検討**
 - ・ 令和9年度から全教科においてCBT化を着実に実施。
 - ・ 技術進展等も踏まえつつ、きめ細かな分析・返却や結果返却の更なる早期化を検討。
- **集計結果データの貸与**
 - ・ 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。

文部科学省における全国学力・学習状況調査結果の活用に関する令和 8 年度の取組

別添 1 の P. 7「取組一覧」のうち、調査結果の活用に関する文部科学省及び国立教育政策研究所の取組の詳細をお知らせします。

別添 1 P. 7「1 学習指導要領の着実な実施・改訂に向けた検討」関係

1. 調査結果の分析・検証や教育指導等の改善の取組に資する資料の作成・配付等

(1) 調査問題に関する解説資料の作成・配信

調査問題の出題の趣旨や学習指導に当たっての参考事項などを示した「令和 8 年度全国学力・学習状況調査 解説資料」（令和 8 年 4 月国立教育政策研究所教育課程研究センター）を作成し、国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載するとともに、各教育委員会、学校等にデータで配信。

（参考）

URL : <https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>

(2) 教科調査の結果に関する報告書の作成・公表

教科調査について、設問ごとに全国的な分析結果や指導改善のポイント等を示した「令和 8 年度全国学力・学習状況調査 報告書【速報版】」（令和 8 年 8 月文部科学省・国立教育政策研究所）等を作成し、公表。また、授業の改善・充実に資するよう、「授業アイディア例」を掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示している。報告書【確定版】については、本年 8 月 17 日以降に国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載する予定。

なお、本調査の結果の分析にあたっては、平均正答数、平均正答率、平均 IRT スコアのみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

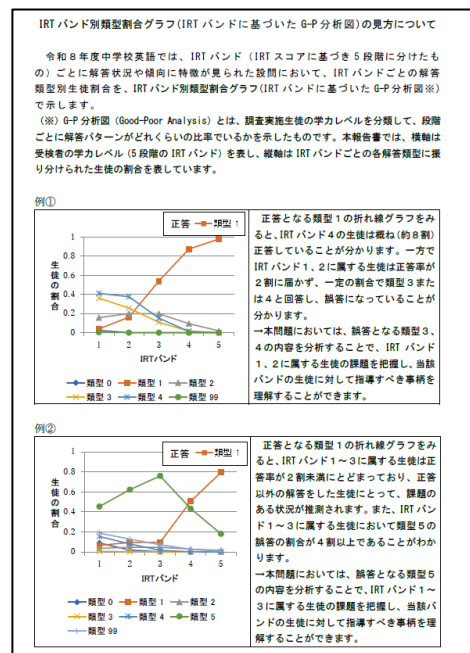
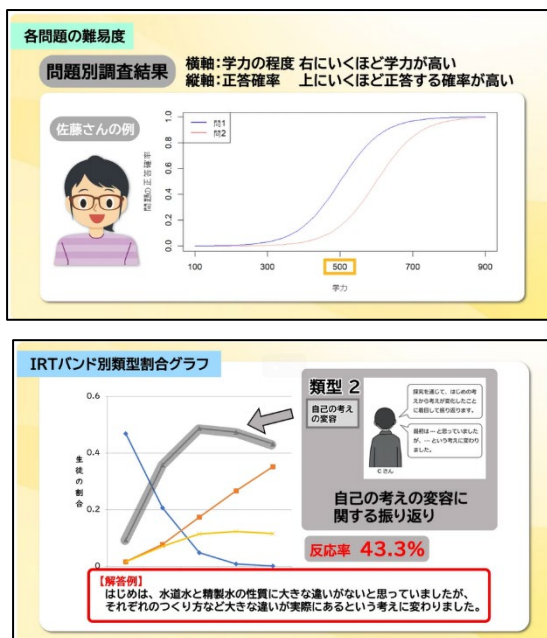
（参考）

URL : <https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html>

(3) IRT に基づく結果及びその活用（中学校英語）

教科調査のうち中学校英語については、これまでの正答数・率に代えて、IRT スコア・バンドで結果を表示・返却している。IRT（項目反応理論）に基づく調査結果を今後の学習指導への活用を進めるために、国において、IRT に基づく分析等に関する研修動画、結果提供に関するリーフレットや動画を公表しているので、併せて御活用いただきたい。

また、教科調査の「令和 8 年度全国学力・学習状況調査 報告書【速報版】」（令和 8 年 8 月文部科学省・国立教育政策研究所）等において、IRT バンドに応じた解答状況の特徴や指導改善のポイント等を示している。各種資料等も積極的に活用しながら、各教育委員会・各学校において、調査結果の分析・検証や、新しい形で提供される調査結果の周知等を行うことが重要である。



(参考)

URL: <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/kensyushiryoudoug/26bunseki.html>

(4) 質問調査の結果に関する報告書の作成・公表

質問調査について、質問項目ごとに全国的な経年変化や、教科の平均正答率等とのクロス集計とその分析結果を示した「令和8年度全国学力・学習状況調査 報告書【質問調査】【速報版】」(令和8年8月文部科学省・国立教育政策研究所)等を作成し、公表。報告書【確定版】については、本年8月17日以降に国立教育政策研究所のウェブサイトに掲載する予定。

ただし、クロス集計については、相関関係が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率との相関関係が表れにくいことなどに留意する等、データから読み取れる内容と実際の状況とをよく照らし合わせて分析することが重要である。

(参考)

URL: <https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/question.html>

(5) 結果の利活用

国立教育政策研究所が運用する「公教育データ・プラットフォーム」において、全国学力・学習状況調査に関するコンテンツを掲載しているので、御活用いただきたい。

○データで見る日本の教育「全国学力・学習状況調査」

デジタル庁ファクト&データユニットの協力により開発した、これまでの全国学力・学習状況調査質問調査の項目や回答結果の全体像を見ることができるツールである。現在、「児童生徒質問調査」「学校質問調査」の質問項目や回答結果、児童生徒質問と学力のクロス分析結果、保護者に対する調査結果を見ることができるツールを公開している。全国規模での質問調査の結果を、課題意識やご関心に応じて経年で比較することや、質問調査と学力のクロス分析結果を示すことができる。

○教育データ活用講座

自治体担当者を対象とした、教育データ活用力向上のための動画・資料を作成・掲載している。本年7月には、動画「令和8年度全国学力・学習状況調査 学校・教育委員会への提供資料とその見方」を公開したところ。

(参考)

①公教育データ・プラットフォーム

URL : <https://www.nier.go.jp/edsc/edp/data/zenkokugakuryoku/>

②教育データ活用講座

URL : <https://www.nier.go.jp/edsc/edp/seminar/>

さらに、教育委員会や学校の課題等に応じた多面的な分析を簡便に行うことが可能な「分析ツール」を、今秋に各教育委員会に提供予定である。Power BI の活用を予定しており、必要に応じて、予めインストールをしていただく等の御準備をお願いしたい。

2. 本調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会の開催

本調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実を図る際の参考となるよう、「令和8年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」を、本年8月19～20日にオンラインで開催し、教科調査の問題の趣旨、結果概要、指導改善のポイント等や、質問調査の結果概要について説明する。また、都道府県教育委員会等の要請に応じ、教育委員会、学校等に対してオンラインなども活用し、国立教育政策研究所の学力調査官等による指導・助言を行う。

3. 国立教育政策研究所が行う教育課程実践検証協力校事業における検証

国立教育政策研究所が行う教育課程実践検証協力校において、児童生徒が学習に取り組む様子の観察等を通じて、学習指導上の様々な実践を客観的に検証することや全国的な学力調査等と学習の実現状況を相補的に捉えることにより、教育課程の基準の改善充実等に必要となる情報の収集等を行う。

令和8年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（令和7年12月5日付け文部科学事務次官決定）

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

7. 調査結果の取扱い

文部科学省は、本調査を通じて、学習指導要領の理念が浸透し学力の状況に反映されているか等を把握・分析するとともに、児童生徒の学習の改善に関する取組や、指導方法や教員配置等の改善に向けた教育施策の充実へとつなげることができるよう、以下のとおり、調査結果を示して公表するとともに、各教育委員会及び学校等に対して、調査結果等を提供する。調査結果の示し方に関しては、CBTやIRT（項目反応理論をいう。以下同じ。）の意義を最大限反映させ、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる結果の示し方となるようにする。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第17号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、公立学校に係る調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当たることとする。

（1）調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

ア PBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会
- ④ 市区町村教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 児童生徒

（ウ）各教科の設問ごとの正答率等

（エ）各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

イ CBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体のIRTスコア等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科のIRTスコア等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会

- ④ 市区町村教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 生徒

(ウ) 各教科の公開問題の設問ごとの正答率等

(エ) 各教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

ウ 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果

(ア) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

(イ) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況と教科に関する調査の正答率、IRTスコア等との相関関係の分析

エ その他調査の目的の達成に資する分析

(2) 文部科学省による調査結果の公表

文部科学省は、調査の目的を踏まえ、以下の事項等について調査結果を文部科学省ホームページに公表する（文部科学省における調査結果の公表の体系は別紙4）。

ア 以下の（ア）から（オ）までの区分に応じ、上記7.（1）ア（ア）及び（ウ）から（エ）、イ（ア）及び（ウ）から（エ）、並びにウで示した結果。

（ア）国全体（国・公・私立学校全体の状況及び国・公・私立学校別の状況）

（イ）都道府県ごと（都道府県教育委員会及び市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（ウ）都道府県（指定都市を除く。）ごと（都道府県教育委員会及び市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（エ）指定都市ごと（指定都市教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（オ）地域の規模等に応じたまとまりごと（「大都市」（指定都市及び東京23区）、「中核市」、「その他の市」及び「町村」並びに「へき地」の五つの区分における市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

イ 上記7.（2）ア（イ）から（エ）までの区分についての、以下の（ア）から（エ）までの分析資料。なお、本資料は、各都道府県・指定都市を単位とする各教科に係る問題全体の平均正答率・スコアの散らばりに関する解釈も含め、当該公表を通じて調査結果を正確かつ効果的に示し、各都道府県・指定都市ごとの状況を多面的に解釈することを目的としている。

（ア）分布や習熟度に目配りした統計表やグラフ

（イ）学力や質問調査結果の状況を示す散布図

（ウ）教科の傾向や児童生徒質問の領域別の特徴を把握するための結果チャート

（エ）都道府県・指定都市別結果等を文章で説明するノート

ウ 教科に関する調査の解答状況及び質問調査の回答状況（一般に公開された場合に、個人、学校及び設置管理者等が特定されることのないよう、データの匿名化処理（必要に応じて疑似データ化等の処理を含む。）を行ったもの）

エ その他調査の目的の達成に資する分析